

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2003-146337
(P2003-146337A)

(43)公開日 平成15年5月21日(2003.5.21)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード*(参考)
B 6 5 D 30/10		B 6 5 D 30/10	Z 3 E 0 6 4
30/16		30/16	A
30/28		30/28	F
			Z

審査請求 未請求 請求項の数7 O.L (全5頁)

(21)出願番号 特願2001-345291(P2001-345291)

(22)出願日 平成13年11月9日(2001.11.9)

(71)出願人 391003794
押尾産業株式会社

神奈川県横浜市港北区仲手原2丁目44番10号

(72)発明者 渡辺 茂
東京都中央区新川1-10-14 押尾産業株式会社内

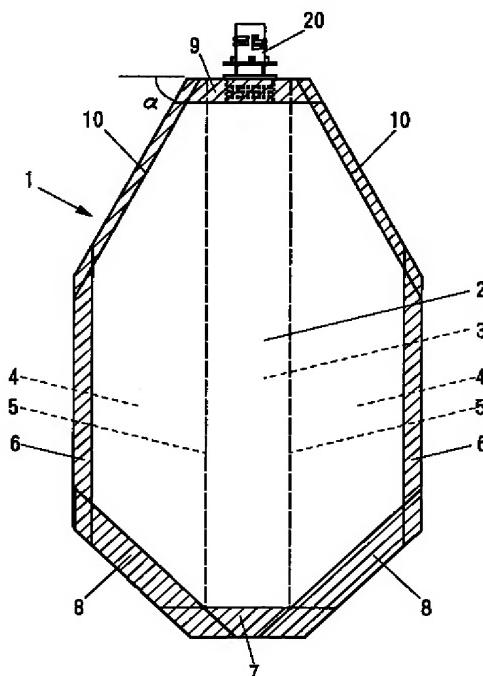
(74)代理人 100093850
弁理士 木村 草彥 (外1名)
Fターム(参考) 3E064 AA11 AB23 AD16 AD26 AD30
BA22 BC18 EA12 EA23 FA04
HD06 HE02 HM01 HN65

(54)【発明の名称】 注出口付き包装袋

(57)【要約】

【課題】 注出口から内容物を注出す際、袋を持ちやすく、内容物を注出しやすく、しかも内容物の注出をスムーズに行うことができる包装袋を提供する。

【解決手段】 内面にシーラント層を有するフィルムを貼り合わせて構成した包装袋1の上端部の中央に、内容物を導出する管状の通路を備えた注出口20を包装袋の正面と背面をなす各フィルム間に挟んで固着する。注出口20の両脇から袋の各側縁部6に向けて斜状に切断され、シールされた斜辺部10を設ける。包装袋1をガセット袋とし、各側縁部6に向けて四つの斜辺部10を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 内面にシーラント層を有するフィルムを貼り合わせて構成した包装袋において、袋の上端部の中央に、内容物を導出する管状の通路を備えた注出口を包装袋の正面と背面をなす各フィルム間に挟んで固定するとともに、該注出口の両脇から袋の各側縁部に向けて斜状に切断され、シールされた斜辺部を設けた包装袋。

【請求項2】 前記包装袋は、自立性を有する袋である請求項1に記載の包装袋。

【請求項3】 前記包装袋はガセット袋からなり、袋の各側縁部に向けて四つの斜辺部を有する請求項2に記載の包装袋。

【請求項4】 前記包装袋はスタンディングパウチからなる請求項2に記載の包装袋。

【請求項5】 各斜辺部におけるシール部上側に、袋の中央に向かって膨らんで形成された第1の膨出シール部を有する請求項2～4のいずれかに記載の包装袋。

【請求項6】 各斜辺部におけるシール部下側に、袋の中央に向かって膨らんで形成された第2の膨出シール部を有する請求項2～5のいずれかに記載の包装袋。

【請求項7】 各斜辺部におけるシール部の上下方向の中間位置に、外側に凸な非シール部を有する請求項2～6のいずれかに記載の包装袋。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、注出口付き包装袋に関する。

【0002】

【従来の技術】液体飲料の包装袋として、ポリエチレンその他の合成樹脂とアルミ箔等を積層した柔軟性を有するフィルムを包装材料とし、これを左右に折込部を備えたガセット袋に製袋したものが知られており、その包装袋60の上部縁部の熱接着部61に、内容物を注出するための注出口62を挟んで固定した包装袋が知られている(図5参照)。この包装袋に用いられる注出口62は、内容物を導出する円管状の通路を備えており、この注出口に口をつけて吸い、飲料を飲む。

【0003】しかし、上記のような包装袋では、内容物を他の容器等に移し替えるような場合、注出口62両脇に、袋の折込部を形成している上部角部63付近が横に大きく張り出しているため、該部がじやまになり、また、袋を持ちにくく、移し替えがしにくい。また、注出口両脇の袋の上部角部63付近は、内容物を充填した際、内容物が充填されない容量的に無駄な部分(デッドスペース)となっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記事情を考慮してなされたもので、内容物を他の容器等に移し替える等、注出口から内容物を注出する際、袋を持ちやす

く、内容物を注出しやすく、しかも内容物の注出をスムーズに行うことができる包装袋を提供することを主たる目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】(1) 内面にシーラント層を有するフィルムを貼り合わせて構成した包装袋において、袋の上端部の中央に、内容物を導出する管状の通路を備えた注出口を包装袋の正面と背面をなす各フィルム間に挟んで固定するとともに、該注出口の両脇から袋の各側縁部に向けて斜状に切断され、シールされた斜辺部を設けた包装袋である。

(2) 前記包装袋は、自立性を有する袋である。

(3) 前記包装袋はガセット袋からなり、袋の各側縁部に向けて四つの斜辺部を有する。

(4) 前記包装袋はスタンディングパウチからなる。

(5) 各斜辺部におけるシール部上側に、袋の中央に向かって膨らんで形成された第1の膨出シール部を有する。

(6) 各斜辺部におけるシール部下側に、袋の中央に向かって膨らんで形成された第2の膨出シール部を有する。

(7) 各斜辺部におけるシール部の上下方向の中間位置に、外側に凸な非シール部を有する。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。図1は本発明の実施例である包装袋1の正面図(内容物が充填されていない折りたたまれた状態)、図2は実施例の包装袋1の内容物が充填された状態の斜視図、図3、4は他の実施例の包装袋1の正面図である。なお、シール部を斜線ハッキングで示す。

【0007】図1に示す包装袋1は、片面にポリエチレン等のシーラント層を有する複合合成樹脂フィルム(シートを含む)によりシーラント層を内面として製袋したガセット袋であり、対向する正面部2と背面部3との間の左右両側に折込部(まち)4が形成されている。符号5は折込頂部である。符号6はサイドシール部であり、袋の各側縁部を形成しており、剛性、自立性を高めるが、必ずしも必要ではない。符号7は正面部2と背面部3とをシールする底シール部、符号8は折込部5と正面部2又は背面部3とをシールする斜状底シール部であり、内容物を充填すると、底面が形成されるように開き、自立性が付与される。包装袋1は、柔軟性を有するものであり、通常、ポリエチレン、ポリエステル、アルミニウム箔等の適宜素材を積層して構成される。シーラント層をヒートシール層として、熱板を用いた熱接着等により、各シール部を形成することができる。

【0008】包装袋1の上端部の中央に、内容物を導出する管状の通路を備えた注出口20が包装袋1の正面部2と背面部3をなす各フィルム間に挟まれて固定されている。注出口20は、通常、包装袋1の上部シール部9を形成する際、熱接着等により固定される。注出口20

は、その開口（先端部）が上部シール部9から突出するものが、内容物を注出しやすいので、好ましい。合成樹脂を一体成形してなるものが好適に用いられ、注出口20の開口が突出する場合、キャップを取着して密閉する。もっとも、注出口20は、内容物を導出する管状の通路を備えたものであれば、ストロー状のもの等でもよく、その構成は特に限定されるものではない。

【0009】注出口20の両脇の上部シール部9から包装袋1の各側縁部であるサイドシール部6に向けて、斜状に切断され、シールされた斜辺部10が設けられている。斜辺部10により、包装袋1は注出口20を上部として、サイドシール部6に向けて末広がりな形状を備えるものとなる。図1における包装袋1はガセット袋からなるため、袋の各側縁部（サイドシール部6）に向けて四つの斜辺部10を有するものとなる。内容物を充填した状態では、図2に示すように、注出口20を上部中心として四つの斜辺部10が各サイドシール部6に向けて四方に広がる形態を呈する。内容物は、各斜辺部10に誘導されて注出口20からスムーズに注出され、また、注出口両脇に大きく張り出した上部角部がないため、内容物を他の容器等に移し替える等、注出口から内容物を注出する際、上部角部がじゃまにならず、袋を持ちやすく、内容物を注出しやすい。ガセット袋では上部角部付近は、もともと内容物が充填されないデッドスペースであるため、容量の減少を招くこともない。斜辺部10の角度 α は、特に限定されないが、45°以上であるのが好ましい。斜辺部10の開始位置は、折込頂部5の近傍であり、袋の大きさ等により異なり、特に限定されないが、容量200~2000m¹の袋では、注出口20の両脇数センチメートル以内であるのが好ましい。

【0010】図3に示す包装袋1は、袋の形態をスタンディングパウチとして製袋した例を示している。底部には、折り込まれた包装フィルムが挿入された底折込部12を有する。対向する包装フィルムの正面部2と背面部3とを、両側縁部（サイドシール部6）で底折込部12とともに熱接着して封止している。符号8は底折込部12と正面部2又は背面部3とをシールする弧状底シール部13であり、内容物を充填すると、底面が形成されるように弧状底シール部13が開き、自立性が付与される。符号9は上部シール部である。

【0011】包装袋1の上端部の中央に、内容物を導出する管状の通路を備えた注出口20が包装袋1の正面部2と背面部3をなす各フィルム間に挟まれて固着されている。注出口20は、通常、包装袋1の上部シール部9を形成する際、熱接着等により固着される。注出口20は、図1において説明したのと同様である。合成樹脂を一体成形してなるものが好適に用いられ、注出口20の開口が突出する場合、キャップを取着して密閉する。

【0012】注出口20の両脇の上部シール部9から包装袋1の各側縁部であるサイドシール部6に向けて、斜

状に切断され、シールされた斜辺部10が設けられている。斜辺部10により、包装袋1は注出口20を上部として、サイドシール部6に向けて末広がりな形状を備えるものとなる。図2における包装袋1はスタンディングパウチからなるため、袋の各側縁部（サイドシール部6）に向けて二つの斜辺部10を有するものとなる。内容物は、各斜辺部10に誘導されて注出口20からスムーズに注出され、また、注出口両脇に大きく張り出した上部角部がないため、内容物を他の容器等に移し替える等、注出口から内容物を注出する際、上部角部がじゃまにならず、袋を持ちやすく、内容物を注出しやすい。斜辺部10の角度 α は、特に限定されないが、45°以上であるのが好ましい。

【0013】図4に示す包装袋1は、図3に示したスタンディングパウチとして製袋した実施例の変形例を示している。この実施例では、各斜辺部10におけるシール部の形態が図3に示したものと異なっている。各斜辺部10におけるシール部上側に、袋の中央に向かって膨らんで形成された第1の膨出シール部30を有する。また、各斜辺部10におけるシール部下側に、袋の中央に向かって膨らんで形成された第2の膨出シール部40を有する。各斜辺部10におけるシール部の上下方向の中間位置に、袋内において外側に凸な非シール部50を有する。非シール部50は、第1の膨出シール部30と第2の膨出シール部40との間に形成されている。斜辺部10を形成することにより、包装袋1の内部は、上下方向において、中間部から注出口20に向かって徐々に内径が狭まり細くなるため、この領域において、剛性が低下し、袋の中折れが生じ易くなる。上記の第1の膨出シール部30、第2の膨出シール部40、さらには非シール部50を設けることにより、この中折れを防ぐようにしたものである。第1の膨出シール部30及び第2の膨出シール部40の双方を設けるのが好ましいが、いずれか一方を設けるようにしてもよい。第1の膨出シール部30・第2の膨出シール部40の輪郭は、弧状でなくてもよい。なお、第1の膨出シール部30、第2の膨出シール部40、非シール部50は、ガセット袋において設けることもできる。

【0014】包装袋1に充填する内容物は、特に限定されるものではないが、液体、粘稠物、粉粒体等の使用に適している。例えば、液体飲料、しょう油、ソース、マヨネーズ、ケチャップ、砂糖、塩等の食品類、また食品に限らず、洗剤、グリース、オイル、塗料等の使用にも供される。包装袋1は柔軟性を有するので、粘稠な内容物でも手で押して簡単に絞り出すことができる。

【0015】以上、本発明の実施の形態を説明したが、本発明は上記のものに限定されるものではなく、本発明の要旨の範囲において適宜変更、付加等して実施することができるものである。例えば、袋の形態は、ガセット袋、スタンディングパウチに限定されるものではなく、

背張り合掌袋、三方シール袋、四方シール袋等を用いてもよい。また、斜辺部10は直線状でなくてもよい。

【0016】

【発明の効果】本発明は、袋の上端部の中央に、内容物を導出する管状の通路を備えた注出口を包装袋の正面と背面をなす各フィルム間に挟んで固定するとともに、該注出口の両脇から袋の各側縁部に向けて斜状に切断され、シールされた斜辺部を設けたため、内容物は、注出口からスムーズに注出され、また、注出口両脇に大きく張り出した上部角部がないため、内容物を他の容器等に移し替える等、注出口から内容物を注出する際、上部角部がじやまにならず、袋を持ちやすく、内容物を注出しやすい。また、内容物の充填に際し、袋内に残留するエアの量を少なくすることができる利点がある。また、包装袋に使用する樹脂量が軽減される。

【0017】袋の重心が下方になるため、自立性を有する袋、ガセット袋やスタンディングパウチからなる包装袋においては、より袋を安定した状態で起立させることができる。

【0018】各斜辺部に第1の膨出シール部及び／又は第2の膨出シール部を設け、また、各斜辺部におけるシール部の上下方向の中間位置に、外側に凸な非シール部を設けることにより、注出口の下方における剛性の低下を防ぎ、袋の中折れが生じるのを防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】包装袋1の実施例の正面図である。

【図2】包装袋1の内容物が充填された状態の斜視図である。

【図3】包装袋1の他の実施例の正面図である。

【図4】包装袋1の他の実施例の正面図である。

【図5】従来の包装袋の正面図である。

【符号の説明】

1 包装袋

2 正面部

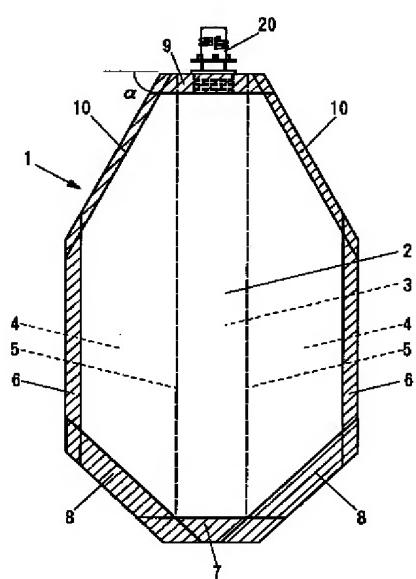
3 背面部

6 サイドシール部（側縁部）

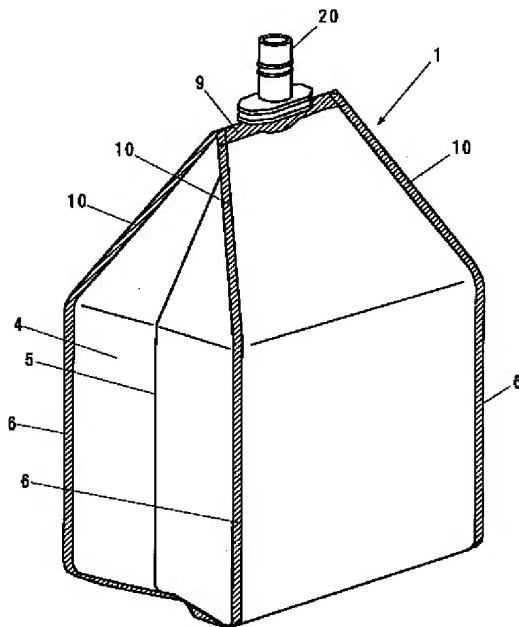
10 斜辺部

20 注出口

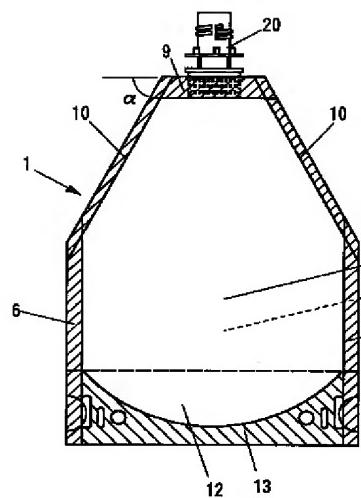
【図1】



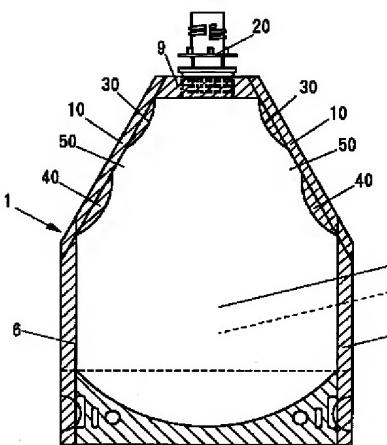
【図2】



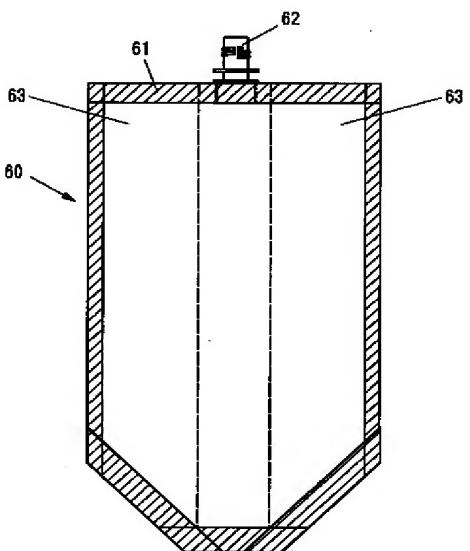
【図3】



【図4】



【図5】



PAT-NO: JP02003146337A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2003146337 A
TITLE: PACKAGING BAG WITH SPOUT
PUBN-DATE: May 21, 2003

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
WATANABE, SHIGERU	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
OSHIO SANCHO KK	N/A

APPL-NO: JP2001345291

APPL-DATE: November 9, 2001

INT-CL (IPC): B65D030/10 , B65D030/16 ,
B65D030/28

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a packaging bag which is easy to hold and pour out contents in pouring out the contents from a spout, and with which the contents can be smoothly poured out.

SOLUTION: A spout 20 including a tubular passage for leading contents is fixed, at the center of an upper end of the packaging bag 1 constituted by gluing films having a sealant layer

on its internal surface to each other, between the respective films forming a front and a rear of the packaging bag. Oblique sides 10 are provided, which are slantly cut from both sides of the spout 20 toward respective side rims 6 and sealed. The packaging bag 1 is made into a gusset bag, and four oblique sides 10 are provided toward the respective side rims.

COPYRIGHT: (C) 2003, JPO